

若者が魅力を感じる業界に
道建協関西、大阪アス材協会

日本道路建設業協会（道建協）関西支部（田口和男支部長）と大阪アスファルト材協会（八田邦裕会長）は9日、大阪市中央区の大阪キャッスルホテルで合同新年互礼会を開いた。両協会の会員各社から約110人が出席し、新年の門出を祝った。

冒頭、田口支部長が「昨年4月から時間外労働の上限規制が適用されている。建設業の『2024年問題』は本年度で終わるものではなく、引き続きDXや新技術の開発・導入などを通して、生産性を高めていかなければならない。若者に魅力ある業界だと認めてもらいた



めにも、こころした環境整備に一層力を入れていきたい」と話した。写真。

続いて、八田会長が「道路建設業界を取り巻く環境は厳しいが、両協会の発展に向け尽力してこころ」と呼び掛け、乾杯に移った。

同日は合同新年互礼会に先立ち、両協会の幹部らが生國魂神社（大阪市天王寺区）を訪れ、本年の安全を祈願した。

